

いつも一緒 富士のペットたち

私たち人間は、朝起きた時や夜寝る前に、洗面台の鏡で目の異常に気付くことがよくあります。鏡を見ることのないペットたちの目の異常は、飼い主が注意してあげることが大切です。今回は、犬や猫を中心に、目が赤く見える病気の一部を紹介します。

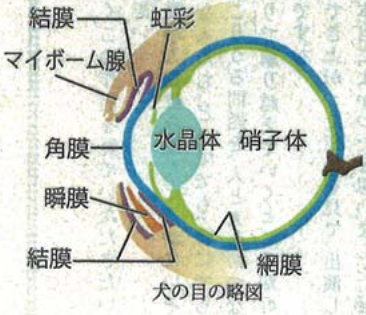


しんめい動物病院院長 (富山市高田) 鷹島 慎太郎

目の病気

それでは、まぶたの病気に ついて説明します。まぶたの皮膚は非常に薄いため、外からの刺激に弱く腫れたり、ただれ

まぶたに腫れ



まぶたが腫れているか、涙や目やにの量は適切か、目まぶしや日まぶしを繰り返しているか、目やにの色は正常か、目やにの量が多すぎるか、目やにの色が赤いかなどを確認してください。

自己判断せず病院へ

瞬膜腺で涙の一部を作っています。この瞬膜腺が突き出て瞬膜が反転すると、チェリーアイと呼ばれる状態になります。まぶたが眼球に向かって生えてしまった場合は、逆さまつげと呼ば

瞬膜腺で涙の一部を作っています。この瞬膜腺が突き出て瞬膜が反転すると、チェリーアイと呼ばれる状態になります。まぶたが眼球に向かって生えてしまった場合は、逆さまつげと呼ば

やがた出る、涙が多くなるという症状が出るのが結膜炎です。抗生剤や抗アレルギー剤などによって治療します。

目の表面にある角膜は、外から角膜の油で作られた膜で潤されています。涙が不足すると、表面が乾燥して炎症を起すドライアイになります。涙の不足は、自己免疫性疾患と呼ばれる病気が原因のことが多いため、生涯にわたる治療が必要となります。

角膜炎と結膜炎は、涙やマイボーム腺の油で作られた膜で潤されています。涙が不足すると、表面が乾燥して炎症を起すドライアイになります。涙の不足は、自己免疫性疾患と呼ばれる病気が原因のことが多いため、生涯にわたる治療が必要となります。

たりした場合は眼瞼炎と呼ばれる。眼球の表面が毛で刺激されます。まぶたには、油を分泌しているマイボーム腺という組織があり、マイボーム腺が感染を起したものが、ものもらいです。

多くの動物は、まぶたの内側の目頭に、3番目のまぶたとして瞬膜があり、瞬膜の裏にある

目やにが出る、涙が多くなるという症状が出るのが結膜炎です。抗生剤や抗アレルギー剤などによって治療します。

目の表面にある角膜は、外から角膜の油で作られた膜で潤されています。涙が不足すると、表面が乾燥して炎症を起すドライアイになります。涙の不足は、自己免疫性疾患と呼ばれる病気が原因のことが多いため、生涯にわたる治療が必要となります。

角膜炎と結膜炎は、涙やマイボーム腺の油で作られた膜で潤されています。涙が不足すると、表面が乾燥して炎症を起すドライアイになります。涙の不足は、自己免疫性疾患と呼ばれる病気が原因のことが多いため、生涯にわたる治療が必要となります。

趣味 シジャー

最後は緑内障についてです。緑内障は、眼球の内側の水(眼房水)がたまりすぎることによって、目の中の圧力(眼圧)が高くなる病気で、激しい痛みや結膜の強い充血、角膜が白く濁るといった症状が出ます。進行すると、眼球が大きくなり突き出てきます。点眼薬などで眼圧を下げる治療が一般的ですが、

「いつも一緒 富士のペットたち」は、毎月第1木曜日に掲載します。